

調査

LOBO 早期景気観測

7月 日商調査日 7月6日～17日
当所調査日 7月6日～20日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

7月の全産業DI ▲59・3
(前月比+3.5ポイント)

○中小企業の景況感

経済活動の再開に伴い、客足が戻り始めた小売業や、公共工事の発注が再開した建設業に下支えされ、持ち直しの向けた動きがみられる。一方、新型コロナウイルスの感染が東京などの都市部を中心に拡大傾向にあることから、観光関連では依然として低調な動きが続く。製造業でも、一部で生産が再開されつつあるものの、過剰在庫の状況から脱しておらず、弱さが残る。また、各地で発生した豪雨災害による生産・物流の停滞や、日照不足による野菜の高騰などの下押し圧力もあって、中小企業の景況感は、厳しい状況に変わりはなく、回復に力強さを欠く。

○先行き

先行き見通しDIが▲53・2（7月比+6.1ポイント）。

国・自治体による国内旅行喚起策の政策効果や、過剰在庫の解消による生産回復を期待する声が多く聞かれる。一方、

東京などの都市部を中心に新型コロナウイルスの感染者が増加していることから、新たな感染拡大や影響の長期化への警戒感が強まっており、新規採用や設備投資を見送る企業もみられるなど、先行きに対して慎重な見方が続く。

「関東ブロックの業況についてのコメント」

新型コロナウイルスの影響が長期化している。特に、例年であれば夏は観光やイベント、お祭りなどによる需要増があるものの、消費者の外出自粛やお祭りの中止などが相次ぎ、引き合いがない（紙加工品製造業）。

足元では売上は堅調なもの、東京を中心に新型コロナウイルスの感染者が増えていることもあり、影響の長期化が懸念される。新しい生活様式への対応に向け、在宅勤務の制度化など、社内体制の見直しを図りたい（電気機械器具卸売業）。

「当所調査」

「新型コロナウイルスの影響から、DIは低迷」

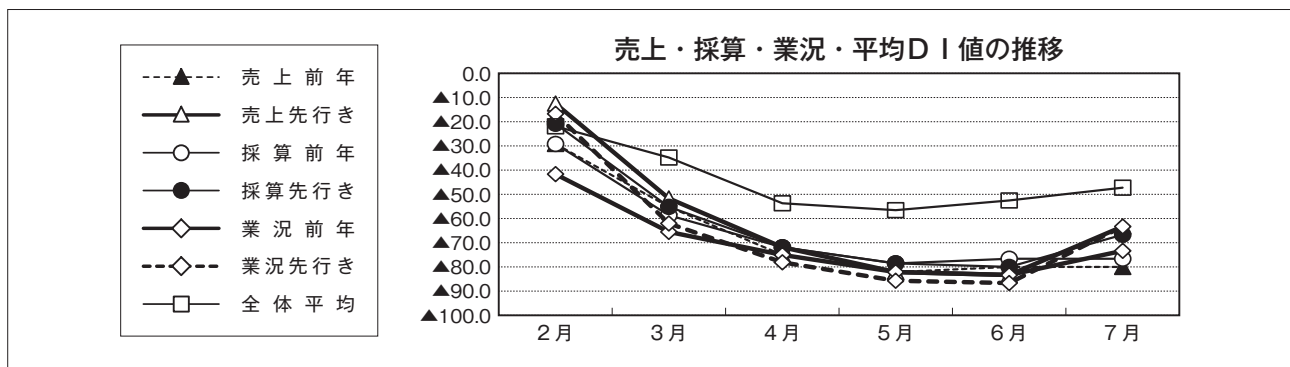
全体平均DIは▲47・2ポイントで、前月に比べ5.3ポイント改善されたが、新型コロナウイルスの影響で景況感の低迷が長期化している。

項目別では、前月と比較し売上先行きが20ポイント改善、業況先行きが23・4ポイント改善と持ち直しの兆しがみられるが、厳しい状況に変わりはない。

寄せられたコメントには「新型コロナウイルス感染症の影響で、今後も個人消費の減少が懸念される」（飲食業）という声が多かった。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和元年	令和2年					
	7月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上前年	▲14.8	▲29.2	▲55.2	▲75.0	▲82.1	▲80.0	▲80.0
売上先行き	▲33.3	▲12.5	▲51.7	▲71.9	▲82.1	▲83.3	▲63.3
採算前年	▲14.8	▲29.2	▲58.6	▲71.9	▲78.6	▲76.7	▲76.7
採算先行き	▲29.6	▲20.8	▲55.2	▲71.9	▲78.6	▲80.0	▲66.7
仕入前年	▲37.0	▲33.3	▲24.1	▲31.3	▲28.6	▲26.7	▲36.7
仕入先行き	▲40.7	▲37.5	▲24.1	▲43.8	▲35.7	▲23.3	▲36.7
社員前年	14.8	8.3	17.2	0.0	▲3.6	0.0	3.3
社員先行き	14.8	4.2	17.2	0.0	▲7.1	▲6.7	3.3
業況前年	▲14.8	▲41.7	▲65.5	▲75.0	▲82.1	▲83.3	▲73.3
業況先行き	▲37.0	▲16.7	▲62.1	▲78.1	▲85.7	▲86.7	▲63.3
資金前年	▲11.1	▲33.3	▲27.6	▲59.4	▲57.1	▲43.3	▲43.3
資金先行き	▲18.5	▲20.8	▲27.6	▲65.6	▲57.1	▲40.0	▲33.3
全体平均	▲18.5	▲21.9	▲34.8	▲53.6	▲56.5	▲52.5	▲47.2



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数 - 減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。